

和州巡覽記

全

僧4
775
291



曾 775 卷 291

遊和州者持此書則聖地遺跡
行程里數不假鄉導而足矣

和州巡覽記

書林柳枝軒次城方英謹識

隈本府下 中村直道 写藏

大和廻

帝より吉野へは東の路と云る人云ありたの路と云え吉野の
西より西の路より先吉野より北に於て那山と云る地は西
大和良と云ふ置へらり南より北に於てすらと云る人

大正二年一月廿日
中村直道氏贈

大和廻

京と系此指

車福寺 又系指より十三町車福寺の南を子きとのちよる指

所り此不すとて京兆平知くをより南に依見え百の寺あり也

編者 車福寺より北をすとて十町七所川指を南に依見えと云

依見え社 依見えの城址山より北をすとて北に依見え山より北をすとて

北の末多しと云ふは北と云ふ心

を指指 昔昔その所を北國と云ふ人しりては指と云
やれりる多しゆり多しはたなくして昔昔の所を指と云

今も其の地割り今も其の方々所はるの事元亨秋廿二
八日五五と書きたる事

我々も徳を定むるの地より申しけるは正徳記よ
見たりかよ記の事と云ふ事師と云ふ事師を夫也
古月廣く振起ちよると曰所許由耶山より八所許也常なり
一里と大なり仏を六きの境を事師と云ふは侍り法也其幅
文を其舞也

柳本杜のふ本村の物も山林ありそ柳本れ教也其の物も六
条の系也とてありぬけいたの方も其たの方へ辰の市あり
辰の市 柳本のももよふ事也

夫あり 辰の市れ也常なりより八里と大ありふ事也夫も此
一として古大ちと林れ今も其絶てわ卷よも久所也八橋
此文を乞大ありの地也

法義も 常良の西ふ申りし許は立律宗の危ちりり多程登
て平治資五年光厳を辰れ創之也是法海公の舊宅の地也
大境をうとる多し其の地は入たり其境はる者も
此地とて記せりと云法義公の危地と云ふるなり其の地と
此をてくると其物也

由形も 法義公の地と云ふ也律宗也て平治資五年の
建之又曰去時法也創之と云大なるなり
不退也 夫大ちりり中可許物也其常業平れ創之平成

て其の地はひりて其の地と云ふなり其常業平自登の地陽
成院宮殿の地也あり右直在法中其常業平自登
て其の地はひりて其の地と云ふなり其常業平自登の地陽
成院宮殿の地也あり右直在法中其常業平自登

年夢ふら年と出て業年のがらをたぐひ月とよめて
そらめつた人のむしめたるもの

眉間ち 宗正所の内也身福ちの所也八所は立保宗也徳武帝
以建之也古所也所也武帝は後者の所也又光厳帝の
後ちゆりいむのついでちの少くも門の城址をたれ徳宗は
更之所城の守方もち金とゆりついで神と云今長尾とゆると
ち門ゆりといふるはちより始まらうとより十所とより山
中へ元正とゆひの所後也

佐保川 有於系記は赤名と般ありちとの所よまとして持書
町北水取者ちの下に橋ゆりゆり也大徳考よ白今新立所の
も橋也水とよまらふより出てもい眉間ちのちの所とゆひ
ゆく或はありち取の所也川とよまはの川と云はは也

雲井坂 東の橋れ少くも坂也也東於八条の更
東の橋 身福ちの所也坂の邊申あり坂橋のこも一尺守河を
縁の所をさるりもえらり又も八条の一也

身福ち 日中やの大地也法宗也元正と官の所三年法海云
不はち創之境内方也所境もく境介もありちの所とゆひ
古大門のち後法の池の上を法宗の徳宗の勤也能するも中
令き本令を物令堂もあき 八条の邊とてたてたはちかあを
海をよむの所よとてち百医所を一条院と東院と西院と
云一条院も所地もよむと東院よ又も東院は千人許の所也
書節短刀とゆひれきり身福ちち社院二万もよむ人千も
あけと華原熱もあきとの所也法海はよりち石所の玉
田原石ハ地令まよむと橋の白は二物ハ人あたるもゆりち

学汗のつらさるるものよ、
凡びら古より八幡をたへん
を後醍醐天皇の御代に
九十二年也といふ
あり、
福を内へ
角とて
そ、
花の

元興寺 母福寺の
栗川 元興寺の
栗川の
此社
の位
也

春日野 栗川
野
香清の
春日野
本社
山
山
山

耳のちさか大守府のより此去二丈八寸半のちさか大守
細七十一万九千六百三十九石白綿一万二千石白糸練金二万石白
二千六百石より下り南尾す京の大仏より大坪むきりしと云大仏
の発れりさきより大なる鐘あり

北野殿殿は白言二丈八寸
只の往九尺一寸分厚八寸鉄細五万二千石白糸練金二百
斤と用ゆとありと云つくと云くは又はさきは後所坊
の本像と云く考を法園劫をの所のまゝと云く本像あり大
ちよ本像をこのと號せり考然に云く此はは南斎者なり是
奇拙考の極也初の名は英徳考と云くすと云く是と改修ふ
今堂之費なり古より天とと御剣のちか御軍といふと云く
切て御所より大正皇中口費の百六十兩斎者より考此と云く
名考は此も御所を御所と云く是は御所と云く

北野殿 山の麓に本太也此は山向の麓にいとありと云く北野
抑と云く云く

那山 高きより二丈八寸半なり二丈八寸半なり此のちか城を町と云く海
くうり物あり考京より是と云くは又もはつと云くはつと云くはつと云く
向ち那山もたは太の物あり今割出ると云くは又もはつと云くはつと云く
おのち後よまはつと云くは又もはつと云くはつと云くはつと云く
松尾寺 今人親王の建さるりは城を町と云くは又もはつと云くはつと云く
山 那山より一里をさき町をたはつと云くはつと云くはつと云く
富原川 山家のまよりありて城の里のまと流るり川あり今と
び川と云く河川と云くはつと云くはつと云くはつと云く

是より 山家のまよりの建さるりは城を町と云くは又もはつと云くはつと云く
御所也 今八幡と云くは城のまよりの町と云くはつと云くはつと云く

三井の法橋寺 聖法を以て建立せり五重の塔三重の塔二重の塔あり
法橋寺 少敷より二里程より二里程の麓の寺を創立し其の
寺を佛堂と名づけたり又中堂の物持寺と名づけ
其師を以て日かるとして佛の寺と云ふ也又佛坊凡六十區を法相寺也
八宗兼学の所なり寺屋石中堂の物持寺ハ法久の時建
造と傳ふる事也寺北門外に寺あり其れハ町を並根と云
店あり一畠田の寺あり其の寺あり

新田 町中北の寺ハ新田大社社を以て云ふなり其の
田舎あり其の寺あり法橋寺の寺並根の町あり其町は寺と云
其寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり
其寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり
其の寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり

中敷の寺

新田町中敷の寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり
其の寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり
其の寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり
其の寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり
其の寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり

其の寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり
其の寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり
其の寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり
其の寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり
其の寺ハ町より南と傳ふる人あり其の寺ハ町より南と傳ふる人あり

神かんも山やま 新しん田たの町まちとぬゝわの川がはも山やまありき下くだに村むら即すなはち神かんも

屋やの岸がし 神かんも北きた山の側そばなる岸がしなり一いつ流ながも北きた神かんも北きたぬぬ

一いつ流ながなりきとさの岸がしとさぬまぬのなる一いつ流ながも

一いつ流ながなるゆゑなりとさの岸がしもさぬまぬのなる一いつ流ながも

海うみも里さと俗じやくハとさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

岸がしもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

山やまの御みもある地ぢとさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

らぬも木の根ねもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

一いつ流ながもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

川がはのりりも根ねのまもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

田たのりりも根ねのまもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

一いつ流ながもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

又また流ながもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

東あづまも海うみもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

神かんも神かんも山やまの側そばなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

一いつ流ながもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

とさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

此こゝのりりも根ねのまもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

一いつ流ながもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

神かんも山やまの側そばなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

一いつ流ながもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

一いつ流ながもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

一いつ流ながもさぬ田たなりとさぬ田たなりとさぬ田たなり

ひららの町ありきより河内國の國府に類なきのありてと云

高麻 新田より四里ありきより七里ありきより丹波より二里ありき

の居り細々と云ふ高麻入りんと云る可なりありては、澤雲

なりきありき澤雲の丹波中野の道の終と際し水なりと

いふ又、其側は、木の波の波の末と云けりて、され、ありきと云

度、極く、ありき、高麻、入り、澤雲、ありき、用、的、事、也、此、終、子

麻呂子親之の建立なり二上之嶽下なり二上之嶽、ありき、

ありき、向、つ、て、本、堂、ハ、親、也、本、堂、ハ、勅、命、此、終、ハ、曼、陀、羅、也、と、云

中野、飛、舟、の、道、の、末、ハ、す、ん、だ、つ、の、り、つ、て、新、曼、陀、羅、と、い、ふ、は、き、よ

中野、飛、舟、の、海、ハ、三、十、九、歳、の、海、と、云、い、ふ、ハ、本、堂、淨、土、お、宗、の、傍、に、住、ん

仰、多、く、一、切、之、後、ハ、疾、死、を、た、の、名、傍、に、住、み、多、く、中、野、飛

の、末、の、曼、陀、羅、也、と、云、い、ふ、は、ありき、常、ハ、本、堂、を、其、の、中、に、中、野、飛

の、み、より、山、より、初、と、い、ふ、は、其、終、ハ、元、よ、る、れ、り、と、い、ふ、り、と、て、卷

宗、ハ、本、堂、を、十七、歳、の、時、の、海、と、云、い、ふ、の、方、ハ、元、也、と、い、ふ、は、

を、卷、と、い、ふ、小、堂、ハ、其、中、に、飛、舟、の、末、ハ、本、堂、を、際、の、時、に、終

なりと云ふ方二上之嶽、ありき、方、に、向、ひ、跪、坐、し、て、膝、俣、と、り、お、堂、の

下、ハ、大、を、其、古、松、を、根、也、と、云、い、ふ、は、と、く、と、云、い、ふ、ハ、松、ありき、

一、後、二、あり、奥、に、跪、坐、を、た、は、是、ハ、宗、寂、と、い、ふ、は、終、終、なる、ありき、

ち、の、曲、あり、町、あり、中、野、の、中、野、也、を、其、初、也、と、い、ふ、は、

を、其、終、ハ、八、里、を、山、門、ハ、新、田、也、と、云、い、ふ、は、

二上之嶽 九子ありきあり二上山と云名ありき高麻ありき

少、く、と、雄、嶽、と、云、い、ふ、ハ、南、と、雄、嶽、と、云、い、ふ、ハ、山、ありき、

二上之嶽と云二上之嶽の末と云て、其、終、ハ、山、門、行、な、き、と、云、い、ふ、は、

柿む村 柿む村の人九の墓あり

藤峯

二つ山のもちきふなり俗よは山とつゝと云北之志
のこゝと首塚のなる所より大蛇の城のたを作月なけと云

葛城山

藤峯のちたつり藤峯より程言ふ大山也今到山也

山より首塚の神社を山とつり一可物の方今到山のちつり物

法橋と云六坊を山と大蛇つりちい河内は属り帯人のい

少とらるものとゆるい大蛇の方たつり一里を河内のはのふ

りく此は社より二千六町なり或説は日中白書のなる山なりと云

山より大蛇の月持はる法園眼下よん也

高尾山

山より高尾山より高尾山は山の後よれなる也

八木

町あり郡山よりきくふはあり中なるあり山にまをさるよ

田原町と云町あり郡山より田原町三つと田原町より八木二つと

たつり也と云より今井八町あり八木の町中より大坂一行たを

八木より高尾山二つと高尾山より高尾山行也八木より大坂山くは

一の大なる也

今井 坂と町也高尾山より大蛇の園中よれ考候るる所はたれ物大

町ありふたをさしと云より大坂一行たあり

高尾山

今井八木のちたつり藤峯より里人の持るちふと云山の

巽よりひ村檀原村あり神武帝の檀原の地は色なり一洗山

の赤大久保と云檀原の地はありと云り日中記は神武天皇

を檀原と云りて下と云め此の山は高尾山のちも檀原の地図の

もなりなる所なりと云り高尾山と云り神武の後よりひ山の原

を今井よりたつり高尾山と云り神武の山と云大久保村は保

村の色なりと云ひ山の物の持る神武天皇は社を又安寧と云

此後よりひ山の南よれ日本紀よんより神武天皇編年より行

香山のふとけ也、昔紫井風流記にも、山牙智山香山、美和
此山と云、因律一は此山の弁よ出る、一昔地のまより、丹丸ハ
蓋原虎より、少く、一山一目よる也

巧儀、久珠五忠、家産を、内よ不勤を、仲茂、法、於、里の、人、と、云、仲茂、り
暮、として、四、中、よ、在、は、人、産、よ、く、お、せ、り、志、の、暮、として、ハ、巧、人、
う、人、雷、の、是、よ、は、き、く、と、云、く、極、丹、中、中、と、計、也、

飛鳥此里、飛鳥井、所、は、よ、ま、白、鳥、川、所、り、と、一、流、よ、ま、は、ふ、の、ふ、ら
そ、ら、ふ、の、流、と、り、り、と、と、云、く、一、飛、鳥、川、は、内、よ、ま、白、川、よ、と、別、流、の
う、ら、り、や、ま、ま、川、也、は、川、ハ、別、流、く、く、ん、と、云、は、色、を、先、茶、と、云、
の、流、の、地、也、給、は、の、城、は、と、云、不、も、は、地、よ、ま、今、ハ、池、也、を、備、村、の
内、よ、ま、ま、備、村、の、ま、お、る、川、の、地、龍、波、城、也、と、云、古、在、大、佛、像、と、
や、ま、ま、ま、て、給、ひ、一、不、る、り、今、う、す、ら、に、の、こ、る、と、云、双、林、坂、と、云、こ、り、

是、町、あり、け、望、ハ、舒、明、天、を、の、ま、と、云、不、れ、ま、の、流、也、又、舒、明、帝
て、武、帝、も、是、不、れ、ま、の、流、は、く、ま、れ、其、の、言、と、云、く、規、者、き、あり、
此、れ、の、れ、り、不、也、是、者、と、云、て、舒、明、を、建、ま、一、如、乎、と、云、は、也、
遊、回、の、是、と、云、飛、鳥、川、よ、ち、う、く、藤、原、ま、ま、か、り、り、

橋、寺、是、の、町、より、奇、く、う、り、地、よ、り、ま、ま、ま、飛、鳥、川、所、り、既、テ
皇、子、勝、鬘、經、と、傳、せ、れ、ち、也、は、き、古、宗、と、云、橋、の、文、の
此、也、と、云、

古、取、町、古、取、山、の、地、の、ま、の、し、な、り、ま、ま、町、也、
古、取、山、古、取、山、は、ま、ま、山、と、云、城、を、山、と、う、り、ま、ま、く、ん、て、住
京、ら、り、ま、ま、の、山、の、と、云、傳、め、る、い、ま、ま、佛、を、り、出、の、山、よ、橋、原
村、の、宮、に、て、ま、の、地、を、り、橋、原、川、を、名、不、ら、り、
壺、坂、古、取、の、町、と、出、て、ま、ま、れ、方、一、板、河、ゆ、け、ハ、古、取、と、云、町、を、と、

よりあまらうれて奇くうらひけいしとて、晝坂の歌を考むれば
礼の礼不也とて、昔法華もともうは、後とて、控てを地ふとて
つたまは、か、口、の、坂、あり

は、後、ち、智、度、を、子、の、建、ま、の、一、元、亨、輝、を、え、ん、と、り

荻原丸 大和の中及、八木、ふた、り、を、地、(城)なる、り、坂、を、い、は、し
坂、と、り、の、方、へ、て、村、あり、若、原、村、と、え、ん、大、和、北、國、中、り、を、地、
城、一、口、の、坂、あり、多、武、の、城、り、城、と、細、原、と、え、ん、く、け、り、(城)り
を、地、山、の、あり、を、あ、り、す、一、は、次、は、是、の、町、り、言、れ、山、の、木、と
西、り、て、城、と、芋、り、城、と、え、ん、を、地、山、り、く、え、ゆ、り、を、あ、り、言、れ、(城)り、上
市、あり、次、り、若、原、丸、也、を、地、ふ、ん、ん、次、は、東、坂、を、若、原、丸、の、物、よ
あ、り、是、も、い、は、し、一、は、高、原、の、な、り、城、坂、也、を、あ、り、又、北、川、り、城、と
言、れ、城、と、え、ん、(城)り、一、里、少、り、行、路、り、城、と、言、れ、(城)と、え、ん、
山、也、言、れ、(城)り、を、地、り、七、里、と、り

音 所、を、若、原、り、二、里、を、伊、勢、り、紀、州、(道)なる、り、(城)り
を、地、の、藤、り、子、町、り、り、ゆ、下、り、り、ゆ、ち、と、也、高、り、十
町、り、り、り、ゆ、き、と、り、り、て、あ、り、い、は、し、一、は、せ、ば、上、田、也、又、土、田、り、下
は、い、は、し、一、は、と、町、り、り、各、中、と、え、ん、れ、り、二、三、町、下、り、下、田、と、え、ん
町、を、是、高、原、の、方、り、下、市、行、路、也、音、り、下、田、(十)町、を
下、田、り、紀、州、(ゆ)り、下、田、の、あ、り、い、は、し、一、は、即、下、市、也、揚、と、り、り
下、市、八、宿、人、ま、り、氏、家、子、行、と、え、ん、是、は、紀、州、(ゆ)なる、り、あ、り、
天、井、川、十、津、川、(ゆ)なる、り、あ、り、高、原、を、地、也、天、の、川、七、里、を、下
市、は、毎、月、六、日、市、を、を、地、川、の、あ、り、り、下、市、り、を、地、(二
三)町、り、川、と、後、り、い、は、し、一、は、ゆ、と、ゆ、り、り、音、り、を、地、(一)マ、
中、音、り、紀、州、(ゆ)り、(音)三、里、り、音、り、音、り、を、地、(八)下

社下の公方り

祥定ち 祥定ちとし今其築汎のちりり

大御軍社 中た御也とらへは是きまそ物と中院谷と云

紀美奈 是きれおらりたはつ訪夫社る西也横川の御所是れ

こふれ一おははたの公方り

辰北尾 紀美奈のらりり民家ありたの志と布川の極云

世言ち 是れ一太なる強き元亨祥去一日本本依のくめらり

すーんこらり

子ち御神 物向一まきり後其大森也はふち此神とた方よはふ

は神さる一考れ云本具せりり小者のらへありそより上よ

町屋なり一平地とけ也は社とがさりて半はてこの叢樹あり

物の方よ大炊後とて大なる炊あり應ふと云はるるとも云

ちよらり

高塔山 高塔山と云は俗に神山と云はきつ一は是を平記一

くさく一高塔のまはりりは城あり也或曰高塔のまは城は平

く嶽なり一敷いよのまはれはなりり考りりとも云は下よと

そ末ハ即其其河也右に御して自較一なるまひ一は平

は地なり

もろれ岩 つ一一是此下なるたはたのまはは高塔山の岩と云

たと地てもよまをくくあり公方りなり一はつけ一はつ

岩屋谷 ともろれ岩の物とらり此岩にたはし針せりともろれ岩

いはりありは岩の地よりたよあり橋多

金性大の神 是吉也山の地と云はれり奥の院とて下寺なり

踏ぬけ此塔 金性大の神のたは奥が坂ととりてははありと隠

と云は信の飛澤の道と云と云古信也我は信の内は遠き飛
遊て中の谷入即上先文所なりそれより物河へ流竹と云信に
我のけぬきと云

喜家 けぬきの信のものよりさるり山より谷入り古方ありは下
は新谷とて五義の道と捨られ不と云は古の谷より我の
流竹と云信と云て向ふと云れと云

奥院の茶屋 坂と云るりてと云

本祥寺 坂と云と云伽藍なり古より本堂の信と云寺は我の役
り云自他と云信と云又廣信院と云

四方高寺 かくれ流也本祥寺より三町と云りかくれと云佛の寺
なり我の不動も深地流と云と云に流と云と云かくの流は山
と云るれたを地山の絶頂と云るれ流の頂の山と云て流と云あり

物りて庵室 四方高寺より物りて庵室の好よりあり山の
但と二町なりてと云るり山と云り小流あり岩の信と云
庵室の物りて流竹あり物りて庵室の信と云の信ありは古
三年なりと云る人と云く本寂なりと云也

喜打高嶽 本祥寺の前の茶屋より古より物りて大谷へ入細た
そ先よ喜打と云けぬきと云た古二町と云るりたを物河
りた大谷へ入たこもより山と云て今も山と云よ二里あり
篠と云山竹流竹と云信と云る毎に六月廿日より日と云て流
際付と云る毎年七月廿日山南の山に流竹と云入る人
みのたよ三方平野のいもやと云と云物柳と云庵室と云は庵室の
庵室柳の庵室の庵室と云と云るり物柳と云庵室と云る二所
庵室は流竹と云り古より山と云りて古より山と云りて古より山と云る

北窓は其末東南流の故と云なりと云ふ所の所あるれ
るるの事一凡そ此山と云ふ山と云ふ所の所あるれ
云はれぬと云ふ事ありと云ふ所の所あるれ
りたと云ふ

法明の所 其所の書より一里をば流に流るると云ふ所の所十
二里所ありと云ふ事ありと云ふ所の所あるれ
色は此山と云ふ山と云ふ所の所あるれ
よりして法明の所と書きたりと云ふ所の所あるれ
は流の末と書きたりと云ふ所の所あるれ

和河此所 是も此所の所ありと云ふ所の所あるれ
流より此所よりと云ふ所の所あるれ
よの所の所の所ありと云ふ所の所あるれ

流平其なる所と云ふ所の所ありと云ふ所の所あるれ
流てより此所と云ふ所の所ありと云ふ所の所あるれ
流の流より此所の所ありと云ふ所の所あるれ
是も此所の所ありと云ふ所の所ありと云ふ所の所あるれ
流より此所の所ありと云ふ所の所ありと云ふ所の所あるれ

因栖 土所より一里此里と云ふ所の所ありと云ふ所の所あるれ
と云ふ十九年を此の所ありと云ふ所の所ありと云ふ所の所あるれ
と云ふ事日本紀よりと云ふ所の所ありと云ふ所の所あるれ
と云ふ所の所ありと云ふ所の所ありと云ふ所の所あるれ
と云ふ所の所ありと云ふ所の所ありと云ふ所の所あるれ
と云ふ所の所ありと云ふ所の所ありと云ふ所の所あるれ
と云ふ所の所ありと云ふ所の所ありと云ふ所の所あるれ
と云ふ所の所ありと云ふ所の所ありと云ふ所の所あるれ

坂ありて下りて山家の小坂方なる蟻が跡とて此よりなる所を上
の所標の形より下りて下り標尾の葉尾をこれより三所より
ゆきはなせ也又尾川は名不之き所河に上りて此より家より
此尾尾のより河のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
見此よりありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
文所 村川よりなる尾尾より三所ありて此尾尾のより三所ありて
より三所ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
尾尾と云ふはこゝにありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
文所は標尾の葉尾より三所ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
葉尾より三所ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて

標尾尾 文所より三所ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
ゆきはなせ也又尾川は名不之き所河に上りて此より家より
此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
見此よりありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
文所 村川よりなる尾尾より三所ありて此尾尾のより三所ありて
より三所ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
尾尾と云ふはこゝにありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
文所は標尾の葉尾より三所ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて
葉尾より三所ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて此尾尾のより三所ありて

よりやま梅も可なり

やま梅も 梅子の種より何れよりあるをそのひらり今津
土宗より山をかり梅の花を帯と帯りしはち也此後後の山は
在りよりをく大なる後よりちよ梅の花を帯此自なきは古自
力の本條あり衣冠よりよて厨子のこびり内よ去りより然
れよその食器を巨皆の念思う事しと云そら梅の花を帯の宿
梅よて此後此の首あり何れ七云日向也平仄律よりあひ款とふ
めりしと云そ也又此も別し祝歌を

吉野所より西河より梅の本をとりて此後此の山を梅の宿
よよ梅よて申の時梅の宿の宿は少くまゝれてあつたりと云
終り山をくさきそひて川流してさよく梅の本よりく梅の宿
甚ち梅なり申公庭は梅の本をさきさきさきさきと云と云

凡山の上の此方の梅より奥の院まで百餘町の間民なるを承りた
皆並木の梅也又左の梅も下の谷に左の梅の宿なりと云と云
よと梅の宿をさきさきさき三月の日の世果と云と云梅の宿
庭よ多くして少くはなす梅より先院宿てさきさき
少く梅の宿なりと云の院もさきさき梅の宿成りて中の梅の宿
なる中此院成りて上此院成りてさきさきさきさき三十日許り
又此梅の宿もさきさきさき梅の宿の院の院成りて此院の院
間くは初梅の宿なりと云と云梅の宿もさきさき梅の宿なり
八平梅の山中及民なる梅の宿は一株もなしと云風くけしと云年或風
ぬくく候り此の宿の宿もさきさき梅の宿なりと云梅の宿の宿
は早年の宿もさきさき梅の宿なりと云梅の宿の宿もさきさき
凡山の上の山を下河より宿なりと云と云梅の宿もさきさき

も南に江と峯の界線とありて軍人教人の向も皆あひつて往
年の室温よりして(津)ありて(津)より其の極多とありて
よありて(津)の所よりかありて(津)の所より(津)の所より
さうしてありて(津)の所より(津)の所より(津)の所より
二十町より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
いんて(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
おの(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
あ(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
み(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
は(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
ん(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
た(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
そ(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
街(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
第(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
ら(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
と(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より

百石又借ちり子不附くれいひのちいふと云ふも
あ(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
急(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より
た(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より

○羽林家並折向吉地の交河は所初て建られりしと云ふと云ふ
我(津)の所より(津)の所より(津)の所より(津)の所より

倉橋村 是月の市常設市の形地なり後り

外山村 是の市あり市の名は須賀村に長髓の地なり市とあり且
紀伊武北に長髓は是色の名ありありて今名は長髓の地なり

是の地は人の住む村とありありて是より流の方山よりなる
多の地は十町許まで志坂村を越えり二十町許にて地坂と云

長門村 小山の地なり是より是より是より是より是より是より是より
是より是より是より是より是より是より是より是より是より是より

是より是より是より是より是より是より是より是より是より是より
是より是より是より是より是より是より是より是より是より是より

梅井此宿 多武の宿より是より是より是より是より是より是より
町は此宿に宿舎を毎月立友の市にありありて是より是より是より

是より是より是より是より是より是より是より是より是より是より
是より是より是より是より是より是より是より是より是より是より

是より是より是より是より是より是より是より是より是より是より
是より是より是より是より是より是より是より是より是より是より

人丸墓 是宿と云人丸の墓は是より一町許に標がと云不
一もあり

磯城郡 梅井三輪の町より是宿へゆけは是より是より是より是より
是原河より是より是より是より是より是より是より是より是より

是宿をこの地を刺の文なりと云林抄に云を刺の文ははじむと云
竹原をこの地は山社河よりと云是より是より是より是より是より

高園山 之痛傍より是宿谷より是宿へ
初瀬 由瀬とも書ふ是宿とも云は地を物より是より是より是より

谷中をこの地は是宿と云るなり一は是宿の地なり是より是より

糸谷とのつれは夫のたけのつれは古来のまありてさきより屋敷ちれ
御所のちを佛國ちとより

日野法界ち 柳太右衛門より十條町良の方なりは後大所の用基
今八志云宗也日野太右衛門の屋敷のありて平家の守衛の妻
此をさける故を山のつれは長崎よりさける方丈のつれあり
六波羅地蔵をて法雲山大名ちとせん始つて細を入れた地蔵を祈り
能ては家々其也一と云ふは平家屋敷ちてゆへ六
不のあまやうるは地蔵一とより

元禄九年上元日

文政三年辰十一月朔日

但十月廿七日
起筆至今日畢

貝原篤信記
中村直道写

京城橋見目録

○洛中洛外名所毎日見物と案内 ○席乃次
京町中橋の由來と志すを ○洛中の名所古蹟と
志すを 七十目より また志すを橋より下敷

初一日 三條山橋大橋と志すありその所と下つら 志す
六つら清水一わらぬより 鞆口までとの及と志すを
今日見物多しと志すふり ○橋は日なり
と志すあり 志す

二日 南橋より 志す 田 志す 後 志す 流 志す まで
と志すを ○志のみら 志す 志す 志す 志す 志す 志す 志す
志す 志す

三日 志す 志す 志す 志す 志す 志す 志す 志す 志す 志す

なとろのとも。但し。日。あ。さ。う。の。た。め。り。た。い。ま。は。し。
る。お。ま。ち。す。う。う。え。た。ま。し。物。ま。く。し。て。し。し。
四日 ち。の。解。船。の。く。た。と。ろ。も。○は。日。の。た。め。り
と。ま。ち。め。り。さ。る。ま。ら。い。ま。た。ま。し。し。下。の。解。船。え
西。島。し。あ。さ。い。あ。く。あ。ら。い。し。

五日 宇。治。の。く。た。と。記。を。○は。日。の。た。め。り。の。た。め。り
と。ま。ち。め。り。さ。る。ま。ら。い。ま。た。ま。し。し。あ。さ。い。あ。く。あ。ら。い。し。
六日 太。田。の。く。た。と。記。を。○は。日。の。た。め。り。の。た。め。り
と。ま。ち。め。り。さ。る。ま。ら。い。ま。た。ま。し。し。あ。さ。い。あ。く。あ。ら。い。し。
七日 宿。我。の。く。た。と。記。を。○は。日。の。た。め。り。の。た。め。り
と。ま。ち。め。り。さ。る。ま。ら。い。ま。た。ま。し。し。あ。さ。い。あ。く。あ。ら。い。し。

八日 石。門。の。く。た。と。記。を。○は。日。の。た。め。り。の。た。め。り
と。ま。ち。め。り。さ。る。ま。ら。い。ま。た。ま。し。し。あ。さ。い。あ。く。あ。ら。い。し。
九日 吉。野。橋。尾。の。く。た。と。記。を。○は。日。の。た。め。り。の。た。め。り
と。ま。ち。め。り。さ。る。ま。ら。い。ま。た。ま。し。し。あ。さ。い。あ。く。あ。ら。い。し。

十日 八。幡。の。く。た。と。記。を。○は。日。の。た。め。り。の。た。め。り
と。ま。ち。め。り。さ。る。ま。ら。い。ま。た。ま。し。し。あ。さ。い。あ。く。あ。ら。い。し。
十一日 江。敷。の。く。た。と。記。を。○は。日。の。た。め。り。の。た。め。り
と。ま。ち。め。り。さ。る。ま。ら。い。ま。た。ま。し。し。あ。さ。い。あ。く。あ。ら。い。し。

十二日 吉。野。の。く。た。と。記。を。○は。日。の。た。め。り。の。た。め。り
と。ま。ち。め。り。さ。る。ま。ら。い。ま。た。ま。し。し。あ。さ。い。あ。く。あ。ら。い。し。

つらとそとゆらゆらゆるはるありひくらたせうく
川の舟さしき

十日 鞆の山あふたるとるらん。は日乃たあうと

ふたつとせうと六里のたけりてはなれ

十日 少あふゆたたとるらん。とてたのりゆきぬ

ふたつとせうと六里のたけりてはなれ

ふたつとせうと六里のたけりてはなれ

十日 江州来たつとてゆたたとるらん。は日乃たあうと

ふたつとせうと六里のたけりてはなれ

ふたつとせうと六里のたけりてはなれ

十日 ちのたをさゆとてゆたたとるらん。は日乃たあうと

ふたつとせうと六里のたけりてはなれ

十日 ちのたをさゆとてゆたたとるらん。は日乃たあうと

ふたつとせうと六里のたけりてはなれ

十日 ちのたをさゆとてゆたたとるらん。は日乃たあうと

ふたつとせうと六里のたけりてはなれ

ふたつとせうと六里のたけりてはなれ

拾遺 ちのたをさゆとてゆたたとるらん

お宝 燕山 岩屋 田本 杉屋

杉屋のたけりてはなれ

目録新編

京城勝覽序

平安城を山城別名定都守多乃邑あり

神武天皇大和別檀原の故と初てまひきりしあり

大和の内指は山城越は門をくまひと云ふなり

二十ある遷都を平安城なり及なり 桓武の帝な

りの故より山城を遷都のつらきなり

故の地四林を遷都のつらきなり

ありりかきりてはありしなり

最中にありて平安乃地なり且中別の奥區あり

りり山川水去他境よりなれり

とて府の國ありし代不易の地なり

のひと皇のぬくきなり

かろとちんやこれとは書と申る所と申は此の位境
して平家の名一もたる事と云うて以て序をり

寛永三年三月廿五日

貝原篤信記

京城湯院

京師の町南ふと横横一東西と横横も横町をれしやゆと
あがるく云南ふゆくと云る云横町をれし何町と云
入西入と云まぐくは田代と云りて町と云れたまはれな
くまのまぐくくたくと二条堂町より水方第一町目と
堂町也二条より何と云まふ町と堂町也夷川より町と
云或は堂町也二条より二町より堂町也二条の
過より下れ町と堂町也二条下り町と云又二条也の堂
町の何町と二条也堂町也入町と云まふ入もまふま
南ふたぐまらり何の名あより物ふりる。○河内町 乞
まらりおろる法外やこれと何をたぐまらり。○寺町
京師也と云まふまふより下より堂町也幸のちぶか

が河川と中河とあり。○浅草町○白山通境町○富路
 ○柳子場まじの○境町○言念あひ○名久町○東洞院
 ○車馬町あがり○馬丸あがり○お務町令取乃お務とあり所
 あり○富河○衣棚あがり○三條の衣乃とあり所
 あり○新町○登丸あがり○三條の
 登丸町よりとあり所あり○西洞院○小川
 ○油あがり○堀川あがり○葺屋町○松徳○
 足門あがり○大まあがり○運あがり令八日とあり所あり○全生
 令六あがり○坊母あがりとあり所あり○又
 ○米あがり令五あがりとあり所あり○又
 西よりとあり所あり○又

市内各町あり。○下京より二條迄
 あり。○下京より二條迄
 とあり。○押上あがりより下と下京あがりより又中下
 あり。○下京より下と下京より又中下
 あり。○下京より下と下京より又中下
 あり。○下京より下と下京より又中下

洛中

○内裏 凡人帝の時清門より〜せり〜しり け免ありて
 ね流を日あり〜 ○仙洞所 ○女院所 不け二
 けおも特流りり〜 ○親王の宅并法宮家
 以上は氣地の内よりけ氣地の内凡人監輿りの〜
 東方○京極通 南少〜一也世こち可より〜
 東京のひ〜り〜也也代を〜より東が流の〜
 民家多く町は〜くち可より〜下までは〜て東
 側を流寺なり西を商家なりちのあよ〜る川
 と中川より〜○鞆口○上流靈社 くの内上流な
 ともゆ〜も〜 ○相國寺 名山の内の一也
 けり寺内ひ〜り〜内は〜中あり〜
 京乃名山を天然寺相國寺達仁寺東福寺萬壽寺なり
 南福ち〜山の一と〜 ○東北院の跡一糸通のみか〜町
 のあよ〜 ○今川通 内裏のふあり末約よ〜
 是よりひ〜にわ〜小糸ひえのふ〜
 ともゆ〜 ○中流靈 上下の流不〜り〜
 ○荒神は 黒谷者田の方よ〜は町のみ〜
 神の社々 ○葦堂 ち町よ〜親者三十一の頃れの一なり
 ○下流靈の社 ち町よ〜あり ○誓願寺 ち町よ〜
 也江河の大木ありけあ末約の町と六角通〜り〜又俗よ
 柳を流る通〜と云こ〜る〜と〜り〜
 ゆ〜たる ○和氣式部 墓 柳を流るのみか〜
 あり ○祇園の流 柳を流る 四条〜り〜町よ〜 ○三条橋通

み系西より六松原通の申也橋也より二町より五橋也六
み系の坊門なり。○影堂 一遍上人の影堂也。○橋ハ
東市也。崩と云くは洛中第一と云く。○下寺町 浄土
宗又阿彌なるものあり。○巳上東方

中法苑は洛小乃也。○妙善寺 妙善寺 中法苑の妙善寺なり。○中法苑 禁裏の地の坊門の西あり
糸物と通ぬる所なり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり
今一系堀川なり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり
下と申す中より中法苑の地なり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり
なり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり

六角堂あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり
坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり
み系松原と云くは東町の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり
まろし酒と云くは東町の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり
西安居院口 大津寺の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり
町の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり
より西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり
寺あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり
より西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり。○坊門 坊門の西あり

泉苑の南よる。○篠の森 勸学院の辺に泉太夫の御よる
 ○壬生 地蔵堂あり寺を壬生志尊が祀らるる古刹あり
 此も源中なり。○中園寺 江都宗の大本寺也古刹ひ
 りし堀川の御み泉北も。○御本堂寺 西川橋とゆふ
 六条のりりよる。○不動堂 池田七条のみかき中堂を
 村を。○縮あつた旅所 九条あり。○赤檜権現堂
 七条に在る。○水堂所 七条あり古堂よと云ふは泉
 太夫公今を源中とある。○西八条 法堂の四宅の跡を
 ○遍照心院 大徳寺と云信より危ちと稱す赤ち乃ゆ也
 ○六条権現 六條王経基の葬地と社をと年法建立あり
 又八幡春日乃社を。○東寺 下京の御も
 のりし也町をいふなり中京のりしと云ふは
 なしふりつるでよるるべし。○下京の古也赤寺の坊を
 今も二十九名方五名ををよりん也御のりし常よあ
 りと信よ源生つと云ふれは古の源生門を都の南大
 門なり是よあらしむるものた九条西よあらしむる
 ○西寺の跡 今八田とありて寺跡のりし也 已上西
 太い源中と記すは介子御の古刹は社を祀りしなり
 ○東郊の周乃大徳寺 秀吉公にせらるる東河原町と
 町とのるむる西を徳川のもをたあり南八条の下
 ぎの九条西よあらしむる大徳寺乃と西が東の南あり
 東郊の四方とありぬり
 右洛中畢

洛外

▲初一日 東方

○三條小橋なる色川よきせり世下より毎年のり候へぬ
 色川より大橋のさかきとてこごをきくは南きく高生
 塚ありとて寺と瑞氣と云秀次公并に幼子及ふ侍家敷
 十人おるべく家よりつむ○三條大橋が成川よりせり
 橋の上よりひえれ山は名の言成山系鞍馬さび山など見ゆ
 ○なりて町三條大橋の東より四條の方へゆくはまを道子
 だてて○大和橋 白川よきせり ○建仁寺 み山の一なり
 大寺也○愛宕の寺 六波羅寺にむひわ側あり○六波羅寺
 寺おる中ハ観音をたて某所太い地蔵也 ○經書堂 六
 波羅より坂とてこごなりてはまわがは也 ○子安乃橋 泰
 庵と云南側 ○車宿 馬頭は二おと二五門の下にありわ側也
 ○清水二五門 傍廢塚坂のゆるりはふ成院也 ○田村堂
 田村丸の本依ありわ也 ○清水観音堂 南よ白へおあひ
 作あり群衆と云 ○地蔵権現 観音堂乃うし河ちま
 小橋ありは社の観音堂とて附よりあは社のあよ依り
 々々石とりひて左右にるあり門の神なり小見たりあは目
 とあささ一方より一方よゆくにまくらちがへ ○奥の院
 和山大系北小極山よ好系なり ○高野山 清水よりふれ
 なるり ○青羽の瀑布 ○三年坂 清水より下つて祇園の
 方より及んぬ ○下河原 小川の霊山よりむ ○霊山 時
 宗なり坂とて赤い上なる左よ僧坊あり好系乃坊ありて野人
 多く僧坊よく精進料理とてきくはまの堂ありそは上り

志如堂の方に柱くみらむ。○志如堂 昔は信濃の国あまの木むら
む今もその志如堂村とて民家ありし中ごろの東照寺
町ありしをもちにらつる門ありしやなかりし人々を
麻が谷 如名が嶽の下なり谷の谷くまぬ谷ありぬれ
をぬるりて東よりよくある所の南の谷なりとて
別の谷は後寛徳が平家とて七やさんとて後念寺なり
山花のありとてふんを島のてしかりがゆよは谷と後念
谷とのふじよのうら山をたが嶽よとれは谷と眼下もなるふ
世にもある。○萬無寺 けし傍傍有て中後とて是實
八年知恩院のまを和尙五具せり以後まごき藤也山
ちしは後念。○銀閣寺 將軍東山殿は利義政の宅の
銀閣の周くは二路なり東末堂とて同人のまきし茶
室は是茶湯庭敷の池あり傳ともあてらるるべしはあ
し。毎年七月十六日雨の初刻まのまつとておくまき大
の字の火と大よとてし。○吉田 南よあるの衛場なり
日本國中の秘跡とてふものりひある日本最と目す日
宮や書しる類は 後天の宿禰とて下り太元
宮や書しる類は 後天の宿禰とて下り太元
餘座天神地祇百萬神とてかきる類は清水谷の先祖の
筆なりしとて後まの神ありあし。鳥居の伊勢内弁
中社の多くは右乃回廊なり日本國字八刻の神社の
敷とて名をりまき三子二百三十二座ありはよりふひ
まき山とてあえゆまき山池を新澤乃池とて吉田兼好が

浜の池とてはせし池とていふもさかや春日江野の
社あり二十二社の一なり是古田北社也○百萬遍吉
田の如くは知悉と云ふ大なる浄土宗曰すの中なる一
なりと云ふし法中寺町あり通年と云ふなりおん
まゝ○聖護院の森 百万遍の南よりりの内は
権現の社ありなるを京より納涼のあり格人ありは
わく聖護院親王の所宅あり天台の所長なり若くは
中に宅ありをさしと云ふなり移りありは
院あり○須弥寺 法華宗なり是ハ二条の末より
はるし若くは法中にある寛文十三年に
ふちりて

▲第三日 東南

京より御んゆき竹田通と仰りて京へ入るなり
○五條の橋 是ハ橋也なりあ東通とありては橋は
河川ありてなり河川七橋の如くあり○大佛 京
と云ふは秀吉公よりて立修ふなり秋は
はのひらさき人守あ乃勝ひろとありて堂の南に
るなり守あ乃二十七年の天守堂乃棟の
二が卯酉の石ありて二三月に
四尺より九尺にすありて九寸ありて
ありて御殿ありて堂の南に
の廟ありてありて○二十
次ありてありてありてありて
一軒ありてありてありてありて

まらぬなり夫殿と秘をあらぬのたんものくくうやむ
ふくむる。○妙法院 親王の法をうみならぬ入る
○智積院 古言宗なり 紀州根来よりうみなる字宗
甚多しちんひあり大寺也。○大谷 妙法院の末の親
曹聖人の養育之暉兼なりあり是よりひびたゆあり
墓存多しと云ふ高野山に修りほそむらありては
一ゆくいさこともむらと云ふ所と云ふ。○新築
院 ひきくありと然れ現の修りなり大寺より南よ
り観音ありありゆく及之み観音寺し修りのはある
分々の親名あり三十三所の一なり。○観音寺 京都見地
のたより大所あり下あり大寺也神宗なり子院多し
○東福寺 大谷の内なり大寺也寺内くふりて廣く取一國
所圖尔基と用なり毎年十月十六日開山日北曲司かほし
温聖像そのや古寺古極たよくかちて人よんをけと
通天橋の紅葉さうり也其さうりる今もけし所よりあり
皆物ありて後にもむらありむらありて中
ごありありはむら也又ふらなり。○稲荷 大社なり
市邊を兼りり四月卯日祭あり。○深草 神院あり又
寛治ちこく大寺り日蓮宗乃寺あり院の空と云あり
○藤森社 ひきくありみるもとありてはむらあり
○依見 京都より河船ありて大坂までありて
神功を修りりし考者なり城ありあり見しと云は
まらしてそむらありて盛のときありて竹向

の重きをより見しころがなり。○竹田 柳より京に
北へ行回遊ともゆく竹田の安樂寺流あり真之宗なり
中堂の長 寺相法堂と舞のしななり 新沖橋の下に八條
女流と舞の城南津の夜宿ありいさ塚南に歌文あり
なりせり川をさし南へをりたの帝泊を平一なるり横大
河といふ所と竹田遊よる又第二条より河川とよりちて
ち河川といふ竹田遊とさくは見え入るを河川といはたよるて
ち相乃女校のくくときと横川に入る竹田遊とさくよる
東河院に入る

△第四日 南 上り院明よゆくたどはせ

○法園寺 山号と中山とを法水の南より 寺金流の横
あり平地ありらふのえんぐのまをささくしるり 柳乃ま
はぬらまのあしきり。○寺乃中心 法宗寺のしめめ山とさ。○
志子玄城 法園寺より山科のゆるみちなり 昔集威道と
云小松谷と云わぬ家谷と馬所のゆるみちのゆるり。○山科
宇治郡なり 東西にお坂山と寺相山のゆるしむおしは陵村よ
こた地流とより方一里府山科七郷十八村より山科を
也なるり

是より山下日地まきく山科乃内の中とさるり

○龍山 遍昭が住しえき寺ありいさよまふうこのまき。○
知徳寺 親王のたのむをささくお徳のまきあり御見より
大津よゆく大道よりいさまをささくちり茶屋のゆるみち
のゆるみち路はまのや社あり宇治物産をささくしるりまみち
宇治八幡といひはありをよりまきをささくしるりまみち

と西りて縮あ小あつものきたる。○小栗栖野 ○小地随心院
中河筋ありと言宗あり。○少栗栖 田村丸の墓あり。○下醍醐
林中は佛成寺院あり。醍醐寺也。里北小松林の内。醍醐天皇
乃内陵を平地あり。里中。朱雀天皇は後人家の後
あり。元又平地あり。里中小三交院及び宅あり。是古を
成乃長あり。庭。藤戸のうきまの岩を秀者さうり。せ
びひりうあひ母れ。と云言。大甲をよまけ。里をを依
多。是よりとの醍醐。一里あり。坂との。下の醍醐寺。古
之宗あり。○上醍醐 美丸あり。名。下。山。は。醍醐
社。は。びら。女人と世。山。は。傍。乃。寺。是。より。山。と
京。京。より。一。日。ふ。や。り。は。母。と。京。より。三。里。す。野。の。東。の。山。下
の。中。に。金。取。村。あり。秋。を。美。丸。の。名。は。美。丸。と。云。言。り。
ある。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。○日野 柳多し。山。下
は。の。後。後。は。吉。野。の。梅。日。野。の。梅。と。云。言。り。柳。多。し。山。下。と
第一。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。乃。首。塚。あり。是。乃
山。の。さ。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。乃。首。塚。あり。是。乃
日。野。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。乃。首。塚。あり。是。乃
と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。乃。首。塚。あり。是。乃

▲第一目 南

と云言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。乃。首。塚。あり。是。乃
○藤の森の社 山。下。の。ひ。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。乃。首。塚。あり。是。乃
園。唐。高。泉。淨。土。の。再。具。佛。成。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。乃。首。塚。あり。是。乃
茶。屋。多。し。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。と。云。言。り。乃。首。塚。あり。是。乃

大はつとゆくたむらさきせ。本情なちりり。社を天恩徳斗
 号也。○黄檗山系福寺。大和国村あり。唐房院元祿師
 開基佛及新扉をり。二門五日人の暮有れ。乃院也。○遠
 方町。宇治より北なる町と云。○大風寺町。まき方町に
 もある。捕より宇治にあり。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 小室戸より北なる町。今大風寺と云。村の北なる
 びり。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 ち親者あり。天台宗也。順礼乃れ。うら。まきみらう。まきみらう。
 興。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 洞宗乃ちりり。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 の作。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 りの。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 と。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 の。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 谷の。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 川中。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 と。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 宇治川。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 ひり。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 吹。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 の。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 り。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 山。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 と。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。
 西。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。まきみらう。

少中倉院と名を改めしよりまごよき此のゆきを名とし
西へぞとて幸良人ゆく。○宇治乃里 民をなげく所
の家まぐとて爾を家産大なりとては里に奉
たり。宇治乃里より東に東流すを名し此の川の如
宇治乃里を久世郡なり。○平等院 興智乃より西
川のひらひらと。○崩乃草堂 教目書也。亦なりと云。○
栴那乃社 栴那の障の下のりあよのりくを後栴那見
し。栴那なるは釈のひまなりなり。亦より宇治
りてゆりよりなり。のあり。

○一は宇治よりまごよきに八幡乃里ありてんからん
毎よりくくくゆき或はまごよきに八幡乃里ありてんからん
こは栴那と名く栴那に下りて名をす。一日栴乃里を
まごよきに八幡乃里ありてんからん。一日栴乃里を
れより粟生乃志の寺大系也。山極山向日の栴那と
んく。亦(栴)乃里ありてんからん。一日栴乃里を
まごよきに八幡乃里ありてんからん。一日栴乃里を
少倉院と名く。亦(栴)乃里ありてんからん。一日栴乃里を
まごよきに八幡乃里ありてんからん。一日栴乃里を

▲第六日 西南 ○大系野少徑よりゆくと志るん

○東寺 まごよき洛中に祀りてなり。山傍より三里。○四塚
東よりなるゆきゆきとて少倉院と名く。亦(栴)乃里ありてんからん。一日栴乃里を
にたありとて。○吉祥院 東より南よりありて。古宮家の乃順地
なり。吉祥天女乃社并古宮神の社あり。たよりありとて。亦(栴)乃里ありてんからん。一日栴乃里を
がまごよきに八幡乃里ありてんからん。一日栴乃里を

○唐橋 ○極里 ○栴川 湫乃奔

○大沢の池 中流を菊池と云 ○名社の曝布此跡 仁徳天皇
 丁未年壬辰とあるは大沢の池のわしをさする人希
 かり人々もささるる見んる一 ○大足ちけ門跡 親王
 ○持徳寺 法華寺と云中寺 良首羯磨師作の杖也也物又
 大寺堂あり古佛あり山の林の内よは持徳と唐もささる
 多し傍裔然が墓あり ○法生院 平法盛乃阿妓王妓女
 などことしちちりしちりしも本像あり尼ほと ○三亥寺 法生
 院乃南より平法盛の居りし港口入たごとしち也
 ○二寺院 本寺阿部改改なるなる ○大金山 二寺院の上
 けり山也とく山と云山のけり山也似たり ○野文
 伊勢を神宮じし伊勢の耐えしころのふ内親王乃あつて
 額しえね乃額即之と云この山のほき山と云 ○大井川 丹波
 よりなる大河なり法梅の方にもなりゆく梅と法月梅と
 この川と云昔野川より下りく梅川と云 ○嵐山川の古なる
 寺山なりと云 龍王権現と云 老翁の橋のよと云つりや
 と年梅と云つて今も梅多し ○降川 神寺なりほき山と
 云 夢定國師の所作なり川と云乃案しけ川よの梅より
 上りて茶屋傍念乃案し あり大井河りひふ 嵐山を龍虎
 橋と云川と云案案のわきよ小指が馬りし案のありふ
 不きは川と云と云くくありふありふあり月夜と云
 もし ○法梅寺 大井河乃古ありあり茶屋をささる
 坂あり虚堂花きき案し ○標名 法梅寺は小川と云は
 神祇あり宗像の神あり 松尾乃標江なり案しと云又

りのより少く彼の多き旅まぐり申所あり町毎にちりちりなると
 まりりたる旅の類をうへて其の行内曼珠院良尚法
 親王の御年より社の下に傍傍と區ありと内入坊の天名宗
 一坊を其言宗より法大名又富久の家より夏に宗は不をけ
 ちの童念をよりれ重然るるれを者よりり區にふ
 社より日と法ふのひ重然より年法より一山より丹後の太田
 山鬼ヶ城をよりる山とす一下とすのめけと日と梅とすは
 ゆくたを然不なり日とりののゆあり日梅とすはのめけ
 あり申言ふるも眼をよりり永のより重よりりもはさるよのまじり
 月移よりりしてまじり(ふに)一山とすは其よりちかすのよの
 まじりよものたとりとて永のより重よりりもはさるよのめけ
 ちて日とるがたも一も重然るる乃西南の谷に其の尾のめけあり
 法和夫を其け位と下とせして位はひり一も重後もあり別あり
 あり一も重然るるをたけりくりりか一法城のこのも居よ
 りゆりて改る

▲廿九日 乾の方のち能松尾梅の尾よ移りたる花と
 日そきりけしむやよりゆめをふとさくくち能松尾梅尾よ
 ぐ一日よるる程日とる能松尾梅よりりる一又日永
 ち何とそまぐりも尾とるくゆりも術が細より青山とあら
 て法城乃大灰の池りもことぬりたるをさるけ門法のちと
 くと法城の町よおだ

○山登 一糸通より聚案とて柱本を乃ある家より入
 草よとるく紅物屋のちとす七折茶屋乃ちよも茶屋の
 系よりりもはさるるの門よりりもはさるる一と

よりゆけとたふす中道とのかりを平松右衛門とてさく林中
とて遊り天満文乃南門より中社まじつを正南より入る也
お殿と申後のあると申もあてななく入りふ本社は
あちあちよりなり天祥のやーろのをもて管見相とあしむ
續日本紀よ 仁徳天皇乃時時遣唐使のより天祥地法と
こた地よありとて管見公の社とて管見相の行社の地と
なり管見乃人をえはけはありありと中社の西へあり観者
堂と申目ともあり南門の外にもありありと南向の觀者といふ南
門乃介よ又乃急流りてお神りる境あり天祥の神母乃奉と
りふ南門はららる船の社あり東門乃介には平太臣のやー海を
東門とてわしゆとあり北門とて谷金川のつて遊るなどとも
より平地の中とて合間にありとてさく管見川に於てあり

○平野社 仁徳天皇の御祠なり山野のうらうらの川もあり
○合間寺 又ち号と森苑院なり相もより属と利義
満乃宅ありしありちゆよ八音をそのじりて死をさく
よる美救河の建之むとて三階の合間あり池あり合間の板敷八
音おの板敷にめぐりし令満のゆとり下り義満の位
牌あり合間を穿きとめて入るはしよる名物もむりり
和室をもり本寺よりなりて○等お院 足利尊氏のちあり
かつゆよ号氏と号持院とてはしよる足利將軍十三世の本
御も福寺なりみらびきとて入る○新嘉寺 もも
大ち也細川物元がちなり本像を池ありと○仁和寺 およ
ちるなり ○南山 仁和寺乃北山也○曼の恩 仁和寺の
もよる○克存天皇の御陵 仁和寺乃御もる○廣沢の池

月と足らるるなり古きやわ〜東の山よりあること池より
つる月と池の池より足るなり〜〇晴遊 民家ありあり物見
寺寂あるをたつて宗なり三亥ち八日甚宗なり風景何
きもよ〜小洲あると池の山よみ新伝ありちんば甚華ちと
いふいふとありせ極はちるぬ〜この里よ極るとま〜ふ
是よりたいたふゆくたせたとす破ゆくたなり〇梅が如
これより山とあるとさ〜ゆくたある梅が如く梅あり山
中也〇言雅ちい坂なりあり神護寺しちありとよ法
勝川をい〜た〜秋をを河さよも心はと紅糸ま〜とよえ言
雅ちんば尾梅の尾は山中山川をくれば佳境なり三石とよ
梅の色の京よりともよ〜はちれ清梅乃清よ志るせる席と
登りる〜と高推の三候なり文堂上人堂ありお〜よ
地花院ありと〜のぞありは院の京より〜秋を紅糸の
とさむらかり〜く〜おのた〜か〜一〇方めあり〜とよ
ひや〜と〜〇さよ乃尾 伴院をぬ的寺榎尾山と云
ち信持戒堅固ゆ〜て殊緒のち也〇梅乃尾 梅尾山と云
ちとまちあり佳境なり冬紅糸ま〜めと人のままを
ち門よの〜とたのけよ三号院を〜のぞとて宗あり〜し
ま〜らぬや茶あり〜今ま〜と〜

▲第十日 南 八播山よゆくたと志るん

〇八播 八播水宿より山と男山とよ又妙の峯と云山城
園の南れ〜河内の境よを京よりゆ〜とあるらあり上
ちね下馬ねとぬり油とよ〜はよゆ〜山宿大橋と〜なり
み豆の町と〜なり八播乃町よ入敷せ河とらえ八播の清橋乃

とていふて山とていふて八幡宮よりいふと神后は三座の神母たる
中八幡東の神切をたぬ之姫大神也神后よりいふと八幡
なり日本もく四番乃文なり第一日也 東照文年二
駿府浅間第三知州を武峯年四は行なり 八月
十有放生舎あり昭の都より 初使よりいふと神山を
神をいふ供奉をいふと下をいふと神山をいふと山と
聖をいふと祭神といふと山よりいふと古雅也 山上乃待
なり下向りたるなり下をいふと神山をいふと山と
神本坊ありそ下護国寺に葉山をいふと山と下乃法
那んといふと山をいふと山よりいふと山と山と山と山と
世より大坂のいふと山をいふと山よりいふと山と山と山と
いふと山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と
塚あり廿市花の名であるなりそ山と山と山と山と山と山と
そと洞がいふと山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と
たよゆくあたりなり 八幡乃町の西八町なりそに橋が町を
信川乃とていふと山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と
山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と
宿といふと山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と
おの字のいふと山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と
令川よりいふと山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と
かろは里人をいふと山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と山と
ふなり

▲第十一日 良 いえ乃山よゆくたときる

○比磨山 雲母坂より上るべし 此の方乃容よ喜ね乃瀑布足ぬ
こらう坂の上あり春々々々の地花きりわたりりよりなうふと
よもいぬよ喜ね乃滝之存は清水と山神の赤牛尾をばは
りり皆同くなり 比磨山乃ちと延暦寺よりよふと天台山と
号し四明乃洞より又都乃宿と云い山よ三塔ありあふ
あるは東塔と云ふよふと中なると西塔と云程も山なりぬ
横川と云ふべし三塔と稱ど東塔より根の中きあり大蔵寺
およ文殊拂りて講堂を山々下傍坊と云ふよ南乃方殿
町山谷と云ふとく雲初寺あり雲初寺の山と云院よりとく京
ろし湖ありと云ふる也景まきれより意家の
物もくよふ子里乃月と云ふとて花の下よふめめめめ
よふるもよふ寺なり ○西塔 此のて相傳檀ありぬ
乃方のまきしに黒岩を固克大師のち也 治東よりあり

○横川 東塔より入るをせとちりりためぐりく一里すか
どやよぬ色魚傍ふ乃雲あり元と大師と稱ど吉山と云ふ
やふらととも同あり花院のこの京より一里あり
よふ横川より八幡よりちりて寺燈松がされと海うくゆらじ
三塔乃内東塔横川を道にありお宿い山城なり

▲第十二日 南の寺ねと海り山ざらぬあくととて

○東寺 上寺ね 此のぼろの里人を是と云ねの意塚いふ
一説意塚ハ下島ね意塚寺よと云ふなりハ裡と云ふ一塚と
いりり ○小枝乃橋 上寺ねと下寺ねの間にあり川の末よわく
水乃橋なり ○秋乃山 乃末よぬ 鳥ねは宮乃喜ね乃
お宿意塚より河り申しと云い山乃山なり紅雲と云

またより勢をくたきたまは材ありと池ありみどり池と
云○岩倉 ともりのけよりひきく山坂とあるゆへに杉原の
くもり岩倉よりけりまの坂とあるゆへに○市原 村乃入
口の方へ神宮ありありむり乃勢地落ちまのありき
に寺に中野中町が暮るる木像昼像あり代事と
好む者くも後せしむらんそ先にあき院乃宿宮あり宿
乃山と号せしむりしむり林たき又子の神と納
祠堂あり河より二所せの町とく同ふたしい山中に去を掛
りや○鞆町 民家あり一茶屋倉あり宿と
本乃目湊うらむ山井の皮とまのうらむ里なり坂町
とくく思沙門堂とつる坂中に教太の神のやうあり
系義を思者乃とき後せしむり一茶屋宿宮のあり
思沙門堂と義行乃のぶと辨考がたりるどそくまち傍と
るる一掃町一堂乃より以齋の山内信相権がと見
○傍山が岩 くま乃中堂のありあり山とまのし一宅と
りよゆちハ傍山がまのうらむを演傍山はなり名は深
義行ありと剣術と字なりとつよい色乃岩倉乃刀に
切らやふにれめありはと倍の天狗のさむりま
中布袴より下るるまのうらむのまのやけあり道と
仁紫乃とまの坂中よりまのうらむのまのまのまのま
か○くゆよりまのうらむのまのまのまのまのまのま
川とくよりまの山とまのゆへに坂ありしむりまのまのま
静系と云里ととぬる長谷と云里もまのまのまのまのま
りし宿宮とくまのまのまのまのまのまのまのまのま

さうして先のきとよむの普地落寺なりとのふ今迄
あつ東よりひきく坂とこえぬもたなはに文のやうあり
まふとこく小糸よいか。○貴布祿 倍平が岩のあり
りて先又海を内也又民家をくふ海より八岩の内せり
おの社よりたくのやうもまてさるる六七町を奥れやう海
光布祿乃御よりぬ神より不案内を木のやうを
お社とてひておとそまきぬる人多くは乃社を
く乃社と名のるたは方敷町やくふ乃社とては乃瀑
布ありさつゆひ乃をれかくよと計せしこつおぬ小糸乃計
せまひ別なりしきねより東より西の路西の方よ越るとおこ
よへりありして賣ゆあり先とゆいありと云
○先さつゆひよりてぬるぬるもて布祿より鞍馬

よおえ又小糸よめさくそ自前よかる事いふ目より世
▲第十四日 小糸ありたるとるふあり口里を

○小糸今乃川よりあつたせかくじよささりたの寺は家
ととぬる言神とさく八ヶ乃里へ入る○はた社言神
村の深山あり下野の神とて先く耳現一の吏あり
四月廿日 佐人まくおれ豊樂あり○八ヶ 民あり
寛良居の病人とてあつて治る病とありて治るは
さ中流ありとてしりす
○小糸大糸とてしりす
○梶井宮 宮中門あり
○神乃何社。○孝子の説 是とてしりす
ゆりてさる。○せごの水。○おろの尾水。○富光院
面乃岩の中茶はとりしありあり尾寺あり 言金院乃后

のち一虎とありてさうはたけに建礼の院と号せし虎之
ま本儀すし内まうしはふり後をさうりら建礼の院
のちもさうりら虎の院と号せし虎の院
びはまらりのみひし虎と号せし虎の院
あり虎院と号せし虎の院
はまらりら虎の院と号せし虎の院
うけの虎の院と号せし虎の院

▲字十音 東

別名後也あくとと純也

○大谷川。○白河村。所ありしはさうりら虎の院と号せし虎の院
牛車ありし馬よりさうりら虎の院と号せし虎の院
左乃山と号し將軍地虎院と号せし虎の院
民家ありし虎の院と号せし虎の院
二月さうりら虎の院と号せし虎の院
て京と号し虎の院と号せし虎の院
北くさうりら虎の院と号せし虎の院
て虎景ありし虎の院と号せし虎の院
山王と号し虎の院と号せし虎の院
さうりら虎の院と号せし虎の院
さうりら虎の院と号せし虎の院
○東照宮。上坂乃内南方と号せし虎の院
大所乃寺ありし虎の院と号せし虎の院
入てめらりゆく内みらら長ひわらうりら虎の院
り定永年中に院と号し虎の院
飢人と号し虎の院と号せし虎の院

のりみちを○下坂に町を湖水まわりの山を西へ大庭を

り○上坂のふれ方校町ゆかり新羅の社を

○唐崎 志賀唐崎乃一書あり唐崎明神乃や一ろを

を果他生をく樂堂をせり一茶店ありまをく一松の

下より湖水を流く見えて景むく一ツのふり常にな人

たえどもいさ志賀のあり唐崎より又まのたをく一京のふれ

頃の名をあり唐崎より又まのたをく一京のふれ

ろろひのふれ言親善と見小園城とて京にゆきだ

○三井寺 又園城寺と云ふまをく一井あり清なり女

人乃母の事と傳むと乃ふと長等山よりふれあり

○言親善 言親善と云ふまをく一京のふれ

古より別は言親善と云ふまをく一京のふれ

今坂と云ふて山科よりて京のふれ

ゆきよりあり山志方の教の下よりふれ

る燈中にふれ寺あり仏像と云ふまをく一京のふれ

意を大所乃作と云ふまをく一京のふれ

▲年十一日 東 ○山よりて京のふれ

新早く京と云ふ

○三條の大橋 ○白川橋 志賀のふれ

やろあり ○既乃水 ○坂坂 日乃器乃ゆれあり

○日乃器 志賀のふれ

○志賀のふれ 天智天皇の御後やまを境山と云○教乃下

たてことともあり ○四文川系 志賀のふれ

た乃水あり ○十福寺 ○進分 志賀より京御見一ゆき

こらうくちまゝと也 山嶽近江乃境を過ら乃東一町是井の正
三町と日本千六町東物乃さうひ也。○牛尾山 此山
みかこ此方乃村より谷川よさひくのりたを一炭法
上の寺あり子子親者あり 青柳乃瀑布のみちと
取さゆん坂わてよふる事いりりぐく一方用はあな
くよ此まのこ。○喜井 さいに泉あり茶屋あり
○お坂山 此乃町は針と賣るお坂一虎屋と良子
○八町 まきこ一り坂のくく一たは乃おの入に北町の名なり
今坊わくにごり。○用ち ありを。○美の清水 た
の左にあり名とるよささめり。○大津 札乃はありそり
たよゆけを二井さ乃わくも山ま一とせく言親者よまされよ
りゆく言親者乃京子及乃をとりりて見る

たは乃中乃わく山を町あり民家大ありとく言今一
着二井さよ多りりりるくもゆるゆくと四金町とせり
く言親者三井さの事い坂下の次よまきをり
○おも乃溪 此さよりおよのりて矢橋よとく。○松平
茶屋あり山の茶屋湖水のそとて京一。○膳所 城あり
町五町中に本常義仲の墓あり。○粟津の原 田中中に
今井兼平が墓あり。○瀬田川 中の瀬田を橋よりまたを
今乃橋めあとも瀬田よ橋乃ありよりあゆく
瀬田乃橋のめも山橋ありとせらる中乃あり橋のあり
てあよまこ一。○おまを 惣主のやうい藤を秀那が
社ありとまひり。○建部 八幡乃やい海を
○石山 橋のめなる瀬田よりすま町あり 観音堂あり 堂の

さうらに大志のいづもつゝなりまゝ林のどくなりを奇
異なりなるりこゝともつてふ山乃なる堂のふれまゝに源氏
のるあり源氏源氏が源氏とわゝりしと云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
あり一石の内よ二面なりしと云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
奇二音と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
て式部が筆なりしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
に坊坊なりしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
ふと云ふなりしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
人なりしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視

も一はち一宿してのるなりしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
にさうら田と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
わいさうら田と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
わいさうら田と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
わいさうら田と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視

▲第十七日

○下鴨乃社南よありしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
野川此下にて一とありしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
よありしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
中社の東南よありしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
うらりしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
四月中の午の日神輿曆山の麓に於て下鴨の社にてありしと云ふ源氏と云ふなり視
ありしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
ありしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
ありしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視
ありしと云ふ源氏と云ふなりしと云ふ源氏と云ふなり視

此社は勅使まねの官司も多く後より俗人多く入り神事として
音楽と奏も并ふとあり大抵は貴賤あつたりる事夥し
半くそくはて日勅使下鴨より上賀茂へゆゆ官司俗令も亦
従ふなり。○古月十九日より晦日と令式として神事ありて同
洛中洛外の男女見りあそんで伽藍する人夥し商人僧徒
と他り涼殿とかまへ酒合ふるといふ基もあつり。○上賀茂神
社 尚玉の一言にて平安城の未定よりさへよりさへ此社あり
大社とて地の好し山前より川ありて陽よむるに後にもむり哉
内の奥平安城の上流より山のかたより川はゆるりく川此の邊に
池よく此社のありてさへ心よくあつり神事神秀れ氣あつり
まゆあつりともくれり靈地也王城の復守とありゆふ事むし
りりこれに神の靈異ハ心よりの事とてまねぬり。○
皇朝類苑よりいふもろこしに書よといは此神の本と詳よまらり
王城よりゆり人の霊殿ありて社説とありてと海下の此社
よまらる一凡ゆるやうの大社に宿母の人の心ありといふもよく
齋戒して拜まへり。○境内に神祠へ入る拜とあり
ゆるり此社覺せんといふはなほまことまへて神前にあつり
ゆるりゆるり。○境内に所は川あり社より流をみり此社
の正前とすまゆりてさへ下流とあり。○此川と云り此社の西よ
ゆるり古寺にありあつり。○此社の東にあり。○
よ岩下橋や乃江ありて序畧の森、市社の東南にあり。社あり
市京ゆるり。○四月中の酉乃日の葵祭に勅使
先下鴨の社より消ゆひて此社に集り。○官司及俗人多
く入り禮式あり音楽舞曲と奏も勅使以下社より行振

〜有り〜まな雅^{ユカ}あり事数あり下鴨〜も同〜石清水の祭
と百多ありと云は祭と云祭と云是古今天下乃大祭也賀茂
上下のとも祭及石清水の祭は奉れ物使おは古もて中は久
志く候きりしり近年きれりとたつて約もせ給ふいふ人
此は如くありて思ふる〜と祭にありていふことありやく
殊勝のりありこれと云るは古の事あり〜○上賀茂は
少〜西賀茂と云不神山の所におり賀茂の神初めと云
現も給ふ不〜今日関白後集病〜も人氏人集る○五月
朔日此神前〜と競馬の足そらあり試あり五月廿日競馬
ありて法人群集もる事数あり〜○西賀茂 上賀茂の所は
山下にあり西賀寺霊源寺と云給るありと又真まると云と云
るあり〜○浮田森 森の内は田の社を賀茂と今宮の川
の所あり〜あり○今宮 紫野あり上賀茂の所西賀山乃少
あり神殿奇麗也前〜祭を多〜是より鷹ヶ峯にあり
五月七日よ此〜は縁不〜は出五月十日祭ありはるより十五
日と云縁不〜人群集もる事数あり〜
○大徳寺 紫野にあり五山外此寺と妙心寺大祥刹^{チツ}あり
○雲林院 大徳寺の系にあり今〜は此のありて後〜たも各寺
○石見山 此〜も此〜松山〜山と云る古の或はの城ありあり
東方方とつ〜と〜鼻と云るあり ○千本寺 聖山の所
よあり間蔵堂あり三月花の盛〜念佛あり人群集す小野皇
紫衣あり暮昔は是に〜と〜今〜と云るあり ○鷹ヶ峯
今宮大徳寺の所ありありと町あり丹波よゆくた也町の所
ありありと云る〜と云るは此の各〜と云るは此寺あり町の入口

東に菜園二不ありて改をまき一町のやたは高り不しは華東の
後下のちけりて寺はなれは各まき一〇常は清の西の方になり
うに山麓まき一住家の不ありは町と少くぬきはれく〇千米と
之里あり寺坂と云坂を丹波よゆたしはれく丹波より日とあり
まきおちてくる人の住まき一〇常は清の町の西の方になり
まきの山麓下に菜園より少くゆたありたのおおくるは清石
あり石の西にえりて人乃けはゆて清のや一まきは石西に
ありまきの田の中にあきまき一〇常は清の町の西の方になり
あり山麓より菜園物産よまきあり西の東の山ありまき一〇
うつら不しまきをぬきして法と敷との二院ありまきの西の方になり
芥杵の西園ちの東お那のおとまき一〇常は清の町の西の方になり
寺は西の方になり〇千米の橋の南の方になりまき一〇常は清の
ありうらりて山の西にまき一〇常は清の町の西の方になり
いふまき一〇常は清の町の西の方になり

拾遺 石と瓦とをいふ

氷室

京都の西あり岩屋山と相尾の向より上京安福院より一里あり
よりありて大徒ちむ山とまき一〇常は清の町の西の方になり
山と二つえゆきし氷室の里あり海山山谷の中に氏家あり田舎
まき一〇常は清の町の西の方になり
氷とつりありてまき一〇常は清の町の西の方になり
本年より十月餘ありまき一〇常は清の町より
下鴨上賀茂今宮大徒ちありてまき一〇常は清の町より
まき一〇常は清の町の西の方になり

此日一日よりつらくはなす

大悲山 峯定寺と云

鞍馬の北の方なり深山の内は寂き堂あり僧坊二區あり天
台宗なり林木多かり岩石多かり林茂り紅葉多しはなまて山
塚の内なり是と云限らず是と云於より三里あり一日の内は
往來多し

岩倉山 金峯寺と云きり

貴布祿山乃のぬおの方なり京路一条の道あり上野原の道より
俣以坂と云ゆく又雲々知と云る金峯寺も亦不動の体なりと云
云宗の傍宇は中堂乃のちと云光ありは京と云いつ又堂の東に
瀑布あり世俗は此の人多しと云る

田原 京より三里あり二里八町

宇治より聖の方なり四里と云大和の道よりありて後
此里に宇治より三里あり宇治田原と云るはより粟隈山と云るは
西見ありげと云るの京よりたのなと云るけりてなせと云る
田原に四方の山ありぬおの谷の中にある堂を仰たり凡十上村を
勢田乃方よりと云く宇治よりと云此の方と入りははの
云ふ里より三里あり町あり高き堂ありこの口と云あり上野原
あり此を南郷と云る粟林あり天武を名りしをせむひ葉
なりは山中の水あり流して宇治の里より下と云るあり
此の町の東よりと云ると云りて田原へ入郷なりと云る
堂ありと云るありぬおの村大道あり二十八町の堂あり山より
ありと云るのよ言宗傍席五丈あり中堂は弥勒仏あり山上より

近頃見えて常しく凡此不入此ぬる事田をなかりけし山道不よりよく
見ゆ此山の東南に和束の郷を^{ワツカ}又^{ガク}は山ありて田ありて一山中
に十五村あり此二郷はかくも里と云へ一たよ山塚をなりおの方には
やし山田をけしと云えて此の田と云ふは田より南東麓のよ
鹿部と云ふ流ありは不のりおをよりなりそよ一園の津ありをより
トよ山石を多くてよと云ふは園の津よりなり田と川あり
皆田川ありてそよ一山神あり山と云ふ一八郷傳傳の題目ト
はんもよ山津と云ふ氏家ありてはぬありしと云ふは一はりをよ
ゆくと云ふ一田よりなり田ありてなりぬる事は事いふよと云ふ
○田ありてなり一日はは社ありて一師の口より右へておま山
はむるなり

松崎

とて河津の東にこの山の物ありそよ松坂と云て思念よゆなり
○本洲も 日ま宗の族なり 妙泉寺田ありは里の人
日ま宗より毎年七月十日の夜男女はるのをよありて
法華の題目と云ふてねるなりと云ふは松坂と云ふ妙法の二
字と云ふもなりなりなりなりなり

折津内の上郡 名不吉跡 山崎ありありなり二日よ松平
山崎の離宮八幡と云ふ所のらに山城折津の傍ありて実戸町
ありと云ふは山塚と云ふ山ありて南に津のふつと云ふは山
森ありと云ふもに折津村ありて里の内へ水が流るるは川
ありぬの山と云ふなりぬと云ふ川ありて各不古歌なり一後と
ぬ流の山敷堂の東よりと云ふ家の水が流れてあり○松井
町あり楠屋ありなり兵庫へ下りてと云ふは子と云ふと教訓で

此處より左御よゆきまじり幸太平記に云くあり。○待宵山
は往々暮橋舟より少もの方れたれぬ是乃らたの大道よりい
えくひの神並梶原俗よりらとまじり云。○金籠ミツカち山崎より
二里あり大道くく丹波谷と云在ぬありてそがさるよりた
かといふきふあり谷口に本宿村を金籠る。此村の境由也山
より坂と十の町よりて金籠る。いづり坂のる山嶺多し寺は只
一坊あり旅人の宿やにいよりちよ宿す本堂の内はむら金籠
書よりし二十五の菩薩の像イマ應ヒナに観音菩薩の像あり庭よ
ぶ極と云極多し。徳田江師入おの境よ花もあはるくよ
みくしういふち入おの境よそをいふ不常し金籠ちのふ乃名
と遊ウツ遊サカ山と云名不よりいれく十所町よ神峯山あり。○古名部
村は伊勢ち此下に居るにあぬ村より七八所南あり大なるぬ
あり由し徳田江師古墳大なる所三町くくにあはる石碑
あり羅山子の碑此路あり碑陰の塔は黒川道祐造り徳田の
は下をたやれ古名部入たよと云。○伊勢ちの移ち也古名部
の上西白のきとちあり二所町より由し此所の哥人伊勢
の御礼をみしと云は城と云造りしと云は古昔よりあり元和
元年改修し也伊勢の墓寺のたの方言と云ありあり石碑
あり羅山子造ありちよ伊勢の畫像あり伊勢の境とてを
高ありし元和元年麻トよりちとせりしと云はの字は
ひくひし河内西の法山下に三田山生駒山葛城山飯盛山をく
るも山嶺を籠り山と東少くも東より言柳城通くもはまた
精舎あり寺の名不し又伊勢ちの西のさるに天神の社
あり

